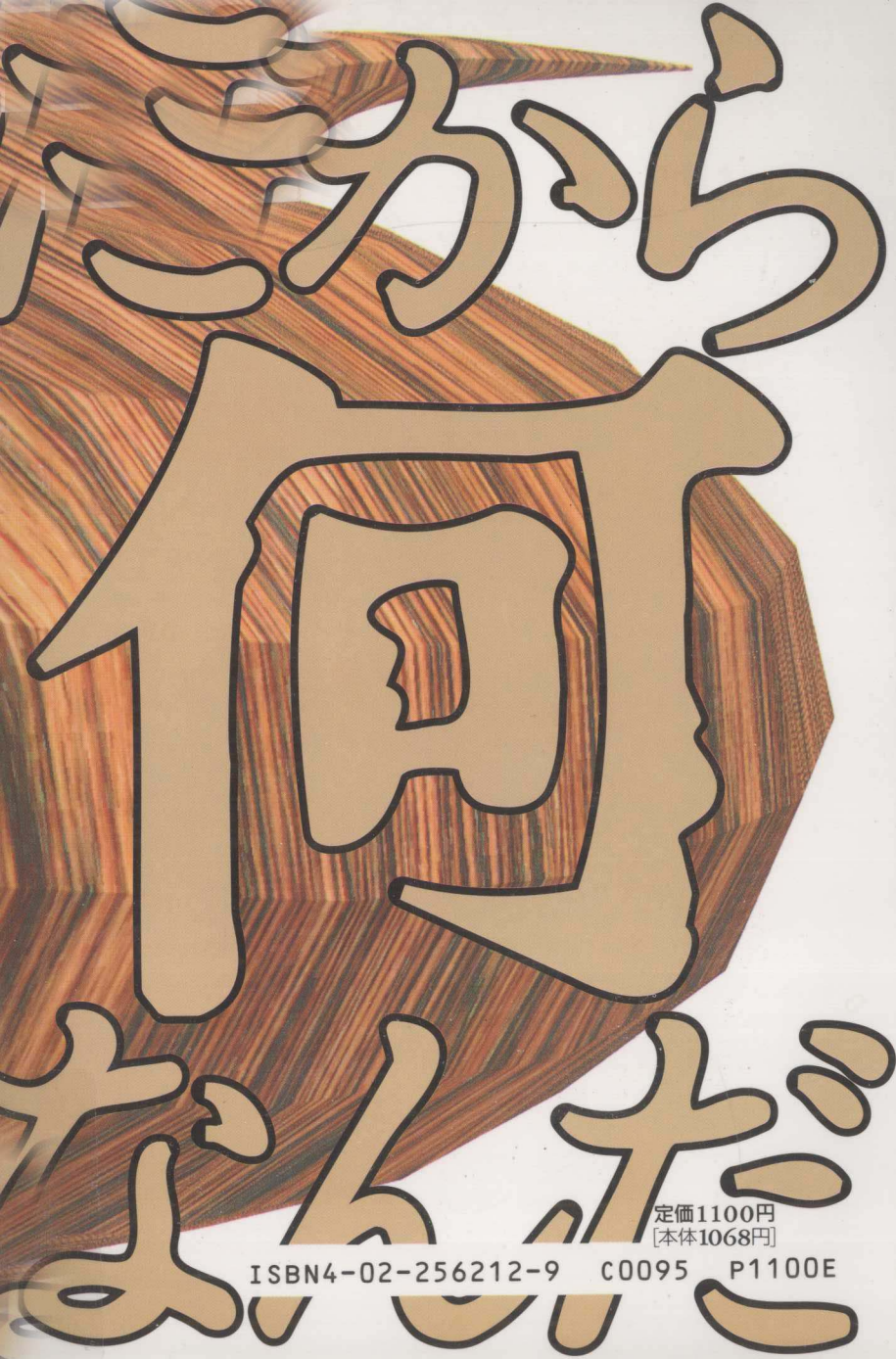




定価1100円
[本体1068円]

ISBN4-02-256212-9 C0095 P1100E

たから 何 なんだ

景山民夫著

朝日新聞社
1990

だから何なんだ

1990年11月30日 第1刷

1991年7月10日 第9刷

著者 景山民夫

発行者 木下秀男

発行所 朝日新聞社

編集・図書編集室
販売・出版販売部

〒104-11 東京都中央区築地5-3-2

電話・03-3545-0131 振替・東京0-1730

印刷製本・凸版印刷

©TAMIO KAGEYAMA 1990 Printed in Japan

ISBN4-02-256212-9 C0095

定価はカバーに表示してあります

目次

早稲田も明治もポルトもみんなエライ……………	6
キャデラックやリンカーンを公用車に……………	9
相撲は国技なんて誰が言い出したんだ……………	12
原発の出力調整実験はヤバイよ……………	15
シルバーコロンビア計画の魔手をみた……………	18
思えばひばりさんの歌衣装は新鮮でしたよ……………	21
共通一次の漢字テストはなっ得できん……………	23
ハマコーさんはヤラセ派だったか……………	26
三菱重工に経歴を調べられてしまった……………	29
テレビは他人のネタをパクるのが常識……………	32
サントリー社員のみなさま御愁傷さま……………	35
再現してみて震えた原発トラブルの恐怖……………	38
東を見ても西を見ても田舎者ばかりだ……………	40
要するにアメリカはナメているんだよ……………	43
「山手線の沿線」がどうして差別なんだ……………	46

日航め!! 禁煙路線で企んだんじゃないだろうな……………	49
地上げ屋サン北方領土を買い占めてよ……………	52
サービスをなんと心得ているのだろう……………	55
ステイビーは実にワンダーでしたね……………	58
道路を掘り返すとマナーが出てくる!……………	61
奥野さんは中国で辻説法をするといい……………	64
ジャンティを知らないとはお気の毒……………	67
危険なゴミと危険な人間も増えている……………	69
カネの力でゴミを引き取らせるのかよ……………	72
原発は安全と広告した関西電力さまへ……………	75
立ち読みされるのは雑誌が悪いからさ……………	78
この歌詞のどこがいけないというんだ……………	80
「つい何となく罪」をつくるしかないか……………	84
マイルドセブンFKのCMはバーカか……………	87
ウソみたァい、民夫、信じられなーい……………	90

ぼくの好きなライトはどこへいったの……………	94
「海の犬」アザラシの大量死が示すもの……………	97
渡辺サンより謝る気があるんならよ……………	99
母さん草取り息子ソアラで原宿めぐり……………	101
残酷な子は親に代わって叱ってやろう……………	104
うさん臭さの魅力を知らない子供たち……………	107
運転者は左右をよく見りゃいいのだ……………	110
日本のお父さんはなぜこんなに寂しいの……………	113
「あれば便利」を勘違いしていいかないかな……………	116
箸ぐらい自分のを使ったらどうだ、オイ……………	119
皇族は車の窓ガラスを黒くしないのだ……………	122
宝クジもクイズも賞金が安すぎますよ……………	125
新婚サンは贈り物をゴミ扱いするのか……………	128
釜めし抜きの北陸新幹線なんてやだね……………	131
トラックの排ガスをなんとかしろ、ゴホ……………	134

陛下を見習われたらどうです江副さん……………	137
原発関連企業のCMは受けられません……………	140
四本足の鶏ぐらいで驚いちゃいけない……………	143
つまるところ親がなっちゃいけないんだ……………	146
責任感って言葉は死語になったのかね……………	149
司会者はよオ自分の言葉で話せよなッ……………	152
『ちびくろサンボ』のどこが悪いのか……………	154
工事のための工事をやるんじゃないの……………	157
『ショーガール』が終わるのは悲しいな……………	161
平成の代の伊方原発に平静ならずの記……………	167
BGMだけは除喪せずにはおけないかね……………	171
竹下さん可愛くない、可愛くないからね……………	175
毒を食いますか 毒を使うのやめますか……………	179
ほんとに楽しい話を書きたいのになあ……………	183
手塚治虫さんありがとうございます……………	187

野生のイルカなんぞ見に来んじゃねえ……………	191
「うそ!」「ほんと!」言葉はもうやめろ……………	195
パーキングチケット制って何なんだよ……………	199
ティラノサウルスだけがスターじゃない……………	203
新幹線コンパートメントはコリゴリだ……………	207
買っても使わないのがカッコいいよね……………	211
ガキの機嫌ばかりとらないで駄をしろ……………	215
もつと色川さんと一緒に遊びたかった……………	219
人間の戦争にクジラを巻き込むなよ……………	223
祝岡本喜八監督。中学以来のファンです……………	227
ダイビング仲間をナメンじゃねえぞ!……………	231
『七人の侍』のLDはなぜ輸入盤なんだ……………	235
汝等にけじめをくわされてたまるか……………	239
これじゃ、軍閥時代と同じじゃないか……………	243
宇野総理の女問題なんてどーでもいい……………	247

参院選を楽しむ方法を教えましょうか……………	251
「慰霊の日」を休日にするなつてのは誰か……………	255
「環境サミット」を甘くみると恥かくぞ!……………	259
今回は闘病記れすが、お許しくらさい……………	263
政府関係者のIQテストを試してみたい……………	267
もう我慢できない。東京を脱出するぞ……………	271
修学旅行で外国なんか行かなくていい……………	275
なんで公園へ来てカップ麺を食うんだ……………	279
ホラー好きが全員犯罪者だったのか……………	283
金髪部分染め少年たちよ、大志を抱け……………	287

だから何なんだ

早稲田も明治もポルトも みんなエライ

— '88.1.1 —

まあ、奇妙なタイトルのコラムではありますが、ついに不惑を越えてオジサンの域に突入した私としては、近頃とみに「何なんだ、これは！」と思わされる事態発言人物現象にブチ当たることが多く、そういうものについての見解を私なりに書いていってみたいと考えている次第です。ひとつ、よろしくお付き合いのほどを。

さて、このところ二週つづけて日曜日のテレビで感動的なスポーツ中継をみるのが出来て喜んでおります。その①は十二月六日のラグビー早明戦で、うーむ、あれは面白かった。なにせラグビーといえば、例のオールブラックスに、文字通りのコテンパン、完膚なきまでに叩きつぶされた日本ですから、ちと見る気が失せておった。ところが、この日の早稲田対明治の試合は、その日本ラグビー界に対する失望感を払拭するに充分な名ゲームでありました。いやなに、私はとりわけてのラグビー好きというわけでもないのです、テレビ中継も年に数回しか見ないのだが、あの日ばかりは偶然にチャンネルを回した自分に感謝したほどであります。特にノースサイド間際、残り一メートルであわや同点という明治の攻

撃は、思わず手にしていたゴーフルを一気喰いしてしまうほどの迫力。同点では優勝は無い立場だといえ、キックを狙わずにあくまでも押し込んでトライを狙った明治はエライ。もちろん軽量フォワードながら守りきった早稲田もエライ。プロ野球にまるで興味の無い私としては、久々にスポーツで見事なドラマを見せて頂きました。

翌週の十三日は、サッカーのトヨタカップでありましたが、この日、東京は大雪注意報の出るドカ雪。その白一色の国立競技場で相まみえたのがウルグアイのペニャロールとポルトガルのFCポルトでしょう。なにしろウルグアイの選手の大半は生まれて初めて雪というものを見たというんだから、それだけでも大変な悪条件ですよ。球は飛ばない転がらない、キックは泥ごと蹴らにゃならない。ところが一人だけケロリと試合してたのがポルトガルのゴールキーパーで、解説聞いてたら、この人、ポーランドの出身だという。そりゃ、ま、雪には慣れてるわな。

試合は前半ポルトが一点、後半にウルグアイが一点で延長戦にもつれ込むという好展開。結局はポルトがエースのマジェール選手のロングシュートで勝つんだけど、面白かったのは、この放送が衛星中継で世界六十数カ国に放送されてたということでして、音声多重放送のサブチャンネルの方ではウルグアイから中継に来てるアナウンサーの実況を、そのまま流しておりました。この実況が最高で、スペイン語だから何を言ってるかは分からないんですが、もう実況なんて口調じゃない。完全にかの「マエハタガンバレ！」なのですわ。ポルトが攻めると「ポルファボール！」なんて泣きそうな声で頼んじったりする。アナウンサー席から頼んだってしょうがないんだけど。

さて、主音声の方では当然に日本語でやっていたのですが、途中でポルトガルとウルグアイという

国についての説明が入りまして、そのポルトガルの方分でアナウンサーがこんなこと言ってた。

「十六世紀には世界の海を制覇し、数々の植民地を持ち、世界に冠たる国でありましたポルトガル。しかし、今はもう何もありません。このF Cポルトチームしかありません」

あはは、そりゃ一寸まずいんじゃないんですかね、思わず笑ったけど。

☆ラグビーに関するおもしろい話を、その後、C・W・ニコルさんから教えて頂いた。

あれほど強かったウェールズのチームが（ニコルさんはウェールズ出身である）何故に最近バツとしないか、という理由である。

「ウェールズのラグビー選手はね、ほとんどが炭鉱で働いていた人たち。それが、休みの日に、暗い炭鉱ではなくて太陽の下の広いところに出てラグビーをやる。日頃の鬱積しているものが、ウワーッと発散される。だから強かったですね。ところがね、炭鉱が次々に閉鎖されていった。いまの選手は、もうただのラグビー選手です。だから弱い」

面白いんだけど、それじゃニュージーランドの選手なんかは、何故強いんだろう？

キャデラックやリンカーンを 公用車に

— '88.1.15 —

東北自動車道が東京の首都高速道路とつながったのが去年の秋のことで、それ以来、高速道路で他府県ナンバーの車を目にする機会が以前の五割増しといったほど増えたように思う。それはそれでよい。たしかに、高速道路の渋滞は、以前にもましてひどくなったのだけれど、公団も都も、この件に關しての具体的解決案は何も考えていないらしいから、もう諦めるしかないのだ。

公団側が発表した渋滞対策が「出口を増設すること」であるときいた時点で、諦めた。要するに「渋滞が嫌ならさっさと高速から下りろ。そのために出口は沢山作ってやるぜ。但し、料金は返さないからな」と宣告されたわけであるのだから。

それは別な話として、こうやって他府県の車が大量に東京に流れ込んでくると、今更ながらに「ああ、東京というのはなんと外国車の多い都市だったんだろう」と思い知らされるのである。他府県ナンバーの車に国産車が多いのに較べて、品川や練馬などのナンバープレートの車には、ベンツをはじめとして外車が非常に目立つ。これは、どうも昨今の金余り

現象というのが、やはりあくまでも東京を中心にした出来事であることの証明のようにも思える。

ところが、それほど輸入車の溢れている東京の町の、しかも中心部で、意外なほどそれを見かけない地域がある。永田町界限がそうなのだ。いや、たしかにいます。いることはいる。しかし、例えば百台中に何台、ということになると丸の内とか青山あたりの方が、はるかにパーセンテージが高いように思える。そして永田町で目にする、ベンツが主力の外国車は、どうもその地域に何らかの用があつて訪ねていらっしゃる方々、つまり財界関係の車であるように見受けられる。

しからば、永田町の住人であられる政界の方というのは、何に乗っているのか？ 国産のプレジデントだとかセンチュリーなんかの高級乗用車が多い。三菱がデボネアのニューモデルを発売した途端に、これも増えた。この辺は、政界と財界のつながりが見えるようで面白い。さて、一体どうして永田町にはベンツに限らず、外車が少ないのか。答えは簡単で、十数年前のオイルショック時に時の宰相が提案した国産品愛用論が、いまだに生きているからに違いない。公用車は、たしかあのときに一斉に国産車に切り替えられたものではなかったか。だが、時代はその当時とは一八〇度転換しているのだ。

僕にどうしても分からなかったのは、中曽根前首相（当時）が、国民一人当たり百ドルのアメリカ製品を買って貿易不均衡を何とかしようというアホな提案をなざったときに、何故すべての公用車をアメリカ製の車に切り替えるという英断を下さなかったのだらう、ということである。日本の閣僚をはじめ、官庁の車がみなキャデラックだのリンカーンだのになつてゐる様を見れば、自動車輸出が矢面のアメリカの日本叩きも、少しは緩んだのではないか。いえ、いまさら閣僚がキャデラックで登院し

たからといって、目クジラ立てる国民はおりませんよ。キャデラックなんぞ、きょう日、郊外住宅地の二坪分の値段で買うことが出来るんですからね。

☆冒頭部分の「公団による出口増設の提案」は、その後、警視庁から「そんなことされたら一般道路の渋滞がなおさらひどくなるだけだ、やめてほしい」という意見が出て、その後進展していかないようである。物の流通を、貨物列車ではなくトラック便を主力とする輸送に頼るようになって以来、各高速道路、とりわけ東名高速は完全に産業道路と化し、上り用賃料金所は慢性的渋滞箇所となった。それに接続する首都高速3号線もまたしかりである。海部現首相は官邸にお住まいで、私邸も千代田区だからまあ関係無いとしても、閣僚の皆さまの中には3号線を利用なさる世田谷区在住の方も少なくないと思うんだけど、別に不便だとも思わないのかしら。

相撲は国技なんて 誰が言い出したんだ

— '88.1.22 —

いま三重県の津市では、日本酒とテレビの投げ売りが行われているのではないかと想像して一人で喜んでいる。というのは、先週号のある週刊誌をパラパラめくっていたら、スポーツの欄で双羽黒のヨイシヨをやっている、初場所の話題の中心は何といっても双羽黒の初優勝。最近の活躍ぶりはめざましく（これはホントだな）九州場所の好調に続いて、沖縄巡業では見事に総合優勝（巡業ってのは何日間やるんだっけ？）を飾り、おかげで故郷の三重県津市が燃えているのだそう。「場所が始まったら街頭テレビを設置、こまかぶりも用意します」（後援会）という熱の入れようだったのだそうである。こういう記事が出てしまったのは、ま、当然ながら新年すぐに発売しなければいけない週刊誌だから、去年のうちに記事を入れてしまったせいなのだけれど、それはともかく、津市の後援会が用意した街頭テレビと、こまかぶりは宙に浮いてしまったわけだろうから、ヤケになつての投げ売りが町のそここで行われている様子を想像すると、おかしい。

しかし、双羽黒の一件に関する様々なコメントの中に、国

技である相撲の最高位である横綱の權威を汚したうんぬんというのが多く目について、これは前々から思っていたことなのだけど、相撲ってのはどうして国技なの？ 国技って一体何なんだろうね？ という疑問がふつふつと浮き上がってきた。こういうときは、ああ無理しても百科事典を買っておいてよかったなあと、セールスマンの方に感謝なんかしてしまうわけで、早速に小学館の『日本大百科全書』第9巻を繙いてみた。

ふむふむ、国技とは一つの国の特有な武術、または趣味を發揮した技能、芸能のこととある。なんだ、芸能まで含めてるのか。それでお相撲さんっていうのはご祝儀を貰うのが当然なんだったのね。いや、どうも以前から、相撲は国技だったという武ばった印象を与えておきながら、タニマチからのご祝儀は平気で貰っちゃうという習慣が、なんかこうしっくりこなかったのですが、なんだそうか、芸能だったのか。そういうことなんだそうですよ、井上陽水さん。

さらに読み進むと、そもそも日本で国技という言葉が最初に使われたのは江戸時代の化政年間というから、百六十年くらい前だということが分かってくる。あれ？ たしかノミノスクネやタイマノケハヤなんてのはもつとずーっと昔の人じゃなかったっけ。しかもだ、この化政のときに国技と称されたのは、相撲じゃなくて囲碁だったのだそうです。あはは、囲碁に先こされてやがんの。

しからば一体いつから相撲が国技とされたかというところ、明治四十二年に回向院の相撲場が完成したときからで、その開館式の挨拶の文中に「日本の国技」という言葉があったからそうなっちゃったというだけの話なんだな。別に天皇陛下が決めたのでも文部省が言い出したことでもなく、つまりは、誰だか分からないけど、そう言った人がいたから何となく決まっちゃったのですね。そうと分かれば、

双羽黒の一件なんてのは、たかが一スポーツ団体、それも芸能色の強いとこの単なる内輪の話で大騒ぎすることは無いじゃないか。マスコミが騒ぐから一緒になって心配して損しちゃった。

☆あはは、文中に何故突然、井上陽水氏が登場するのかと、疑問に思われた読者もおいでもありませんが、これは内輪の話だから教えてあげない。謎を解く鍵は色川武大氏が持っておられたのだが、いまとなつては、それも彼岸の彼方である。

それにしても、北尾の、あの体軀はもったいないんだけどなあ。結局、プロレスでも大成はしないんだろうなあ、あの性格では。